



ProFX10 GO

オーナーズ・マニュアル

Ver. 1.0



安全上の注意

- ・この製品を使用する前に本書をよくお読みください
- ・本書は必要などきに見返せるよう、大切に保管してください
- ・警告表示には必ず従って、正しくご使用ください
- ・水のかかる場所や湿気の多い場所では使用しないでください
- ・本機を液体のかかる場所に置かないでください。また操作や電源コードの取り扱いは濡れた手で行わないでください
- ・お手入れは乾いた布で行ってください
- ・製品の通気口をふさがないでください
- ・電源を接続する前に、本製品の電圧仕様が使用する地域の電源電圧と一致しているのをご確認ください。適切に設置されたコンセントを使用してください。
- ・雷が接近している場合や、長期間本製品を使用しない場合には、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください
- ・意図しないトラブルが起こったときのために、電源プラグや電源スイッチを容易に操作できる状態にしておいてください
- ・本製品および電源コード、接続ケーブルを暖房器具やストーブなど、熱を発する機器の近くには設置しないでください。また裸火を近づけないでください
- ・本製品の近くで可燃性ガスを使用したスプレーなどを噴射しないでください。引火のおそれがあります
- ・本製品を移動するときは、電源ケーブル、接続ケーブル等をすべて抜いてから行ってください
- ・電源コードが踏まれたり、挟まれたりしないようにしてください
- ・メーカーが指定した付属品・アクセサリーのみを使用してください
- ・安定した場所に設置し、スピーカースタンドを使用する場合は耐荷重や取り付け方法を確認してください
- ・修理や点検は、必ず専門の技術者にご依頼ください。以下のような場合には、製品の修理が必要です
 - ・液体をこぼした、異物が製品内部に入り込んだ
 - ・落下や踏みつけなどで、本体または電線コードやプラグ等が損傷した
 - ・雨や強い湿気にさらされた
 - ・正常に動作しない
- ・テレビやラジオ、携帯電話の近くで使用するとノイズが発生する場合があります
- ・大音量により聴覚障害を引き起こす可能性があります。また、音量にかかわらず長時間の聴取により継続的に耳に負担をかけ、聴力に悪影響を及ぼす可能性があります
- ・ファンタム電源は対応するコンデンサーマイクのみで使用してください。ファンタム電源スイッチを操作する際は、接続しているアンプをミュートしてください
- ・バッテリーは、必ず同じタイプのもので交換してください。誤ったタイプと交換すると、爆発の危険性があります。また、バッテリーを直射日光や高温にさらさないでください。極端に低い気圧にさらすと、バッテリーが爆発したり、可燃性の液体やガスが漏れるおそれがあります



注意

感電の危険があるため、カバーを取り外さないでください。
修理は必ず専門の技術者にご依頼ください。

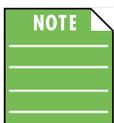
※本製品を廃棄する際は、地域で定められたルールに従って処分してください

この取扱説明書の使い方



このアイコンは特に重要、あるいは独自の情報を示す際に使われています。

より詳細な情報の場合、顕微鏡のアイコンを使っています。また実用的なヒントの説明も含んでいます。



特定の機能や操作について注意を喚起しています。

注意事項

大音量により聴覚障害を引き起こす可能性があります。また、音量にかかわらず長時間の聴取により継続的に耳に負担をかけ、聴力に悪影響を及ぼす可能性があります。耳鳴りや聴力の違和感を感じた場合は、ただちに使用を中止してください。

ミキサーの電源を最初に入れ、次にサブウーファー、最後にスピーカールの順で電源を入れてください。同様に、電源を切る際はスピーカーを最初にオフにし、次にサブウーファー、最後にミキサーをオフにしてください。これにより、電源のオン・オフ時に発生するポップノイズや他の上流機器から発せられるノイズがスピーカーに出力されるのを防ぎます。

はじめに

ProFX10 GOをご購入いただき、誠にありがとうございます。

Mackie ProFX10 GO は、充電式、交換可能なバッテリーにより最大 8 時間の動作が可能、いつでもどこでもミキシング作業を行えます。

Onyx™ プリアンプの、非常に低ノイズで広いヘッドルーム、トーンシェイピング EQ、アナログコンプレッサー、GigFX+™

エフェクト、3つのUSBレコーディングモードを搭載。Bluetooth® 経由でスマートフォンを接続すれば、音楽を再生したり、バックトラックに合わせて演奏したり、ライブストリーミングを行うことができます。

ProFX10 GO は、妥協のない Mackie アナログミキシング体験を提供します。

主な特徴

交換可能、充電式 GB-10 バッテリー

電源から遠く離れても、最大 8 時間のミキシングとレコーディングが可能な GB-10 充電式バッテリーが付属。

ミキサーを電源に接続するとバッテリーが充電されます。また、ユニットから取り外して充電も可能なので、持ち運びに便利です。

電源コンセントが少ない場合や、電源が不安定な会場で作業する場合にも、バッテリーは優れたバックアップ電源として機能します。

バッテリーが切れた場合は、予備のバッテリー（別売）と交換して、バッテリー使用時間を延長できます。

Onyx™ プリアンプなど、プロ仕様の Mackie ミキサーのあらゆる機能を備え、コンセントの位置に縛られません。

モバイル、リモートイベント、電源が限られている会場向けに、バッテリー駆動によるミキシングを実現します。

双方向Bluetooth®

Bluetooth®を介してスマートフォンやタブレットと接続。ワイヤレスで音声を送受信

曲を再生したり、バックトラックに合わせて演奏できます。

スマートフォンを使って、Twitch、YouTube、Instagram等でライブやイベントをストリーミング配信できます。

Mix Minus を使用すると、ハウリングを気にせずミキサーを通じた通話ができます（通話エコーキャンセル機能）。

カスタマイズ可能な GigFX+ エフェクト

高解像度 GigFX+™ エフェクトエンジンにはリバーブ、ディレイ、コーラスなどを備えます。

エフェクトのプリセットを編集および保存できるフルカラー LCD ディスプレイを搭載しています。

USB レコーディングモード

・ 24-bit /192 kHz 2in 4out USB-C オーディオインターフェース搭載

・ 3つのUSBレコーディングモード：STANDARD（FXを含むメインミックス）、LOOP BACK（コンピュータオーディオを含む）、INTERFACE（チャンネル1-2）

・ ミキサーからコンピュータ出力をモニタリングするブレンドコントロール、レイテンシーフリー、専用のUSB 1-2プレイバック

・ チャンネル7/8に割り当てられ、独立したUSB 3-4リターン。ソフトウェアインストゥルメントの演奏やオーバーダビングに最適

・ Waveform OEM™ レコーディングソフトウェア付属

アナログミキシングの必須機能

・ チャンネル 1-4 に最大 60 dB のゲインを備えた4つの Onyx™ マイクプリアンプ

・ 楽器をダイレクト接続するHi-Z スイッチ（チャンネル 1 および 2）

・ 100 Hz ローカットフィルター

・ すべてのチャンネルに 3 バンド EQ搭載

・ チャンネル 1 および 2 にワンプロコンプレッサー搭載

ハードウェア仕様

・ 頑丈なスチール製シャーシ、ABS による側面保護

・ バッテリー付きで 2.7 kg

・ 97×267×300 mm(バックパックに収納可能)

セットアップ

以下の手順に従って、ProFX10 GO をセットアップしてください。ProFX10 GO のより詳しい操作方法については、このマニュアルで後述しています。

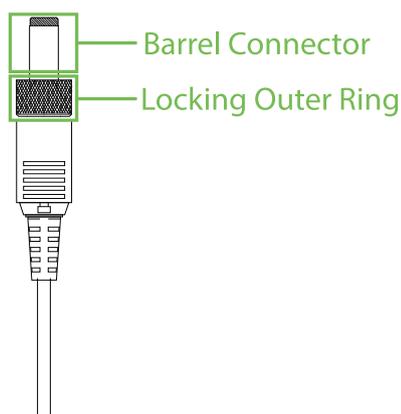
1. 「安全上の注意」をよくお読みください。
2. チャンネル EQ およびパンノブ以外のすべてのノブを最小にします。
3. すべてのチャンネル EQ ノブとパンノブを中央のクリック位置に設定します。
4. すべてのスイッチをオフにします。
5. メインアウトからパワードスピーカー（またはパッシブスピーカーに接続されたアンプ）にコードを接続します。
6. 電源コードをミキサーのコネクターにしっかりと差し込み、もう一方を接地された AC コンセントに差し込みます。適切な電圧に対応している場合があります。
7. ミキサーの電源を入れます。
8. パワードスピーカー（またはアンプ）の電源を入れます。
9. ミキサーに信号源を接続します。
 - ・ マイク入力にマイクを（必要に応じて、ファンタム電源をオンにしてください）
 - ・ アクティブピックアップ付きのアコースティック・ギターなどの楽器レベルソースを楽器入力へ
 - ・ キーボード、ドラムマシン、CD プレーヤーなどのラインレベルソースをラインレベル入力へ
 - ・ スマートフォンなどをBluetooth 経由でペアリング
10. 接続機器の入力のボリュームが、通常の使用時と同じであることを確認してください。
11. そのチャンネルのフェーダーを「U」（ユニティゲイン）の位置まで上げます。
12. メインフェーダーをゆっくりと、快適な聴こえやすい音量まで上げます。
13. 他のチャンネルについても、手順 9 から 11 を繰り返します。

リアパネル



ProFX10 GO ミキサーの背面パネルには、電源コネクタ、電源スイッチ、およびコンピュータに接続するための USB-C ポートがあります。

電源コネクタ



ProFX10 GO ミキサーには、100 VAC から 240 VAC までのあらゆる AC 電圧に対応するユニバーサル電源が搭載されています。

従来の電源に比べ、電圧低下やスパイクの影響を受けにくく、電磁的絶縁性が高く、AC ラインノイズに対する保護も優れています。

ロック式のバレルコネクタは、電源アダプターに接続されたコードの一端にあります。ProFX10 GO ミキサーの電源コネクタに接続し、外側のリングを時計回りに回してロックします。抵抗があるまでねじ込み、締めすぎないでください。電源アダプターのもう一方の端を、接地された AC コンセントに接続します。



ProFX10 GO に付属の電源ケーブルのみを使用してください。

電源スイッチ

電源コネクタの隣には、電源スイッチがあります。このスイッチの上部を押してミキサーの電源をオンにし、このスイッチの下部を押して電源をオフにします。



ミキサーを最初にオンにし、次に外部パワーアンプまたはパワードスピーカーの電源をオンにしてください。同様に、ProFX10 GO は最後に電源をオフにしてください。これにより、PA で電源のオン/オフ時に発生するノイズ音(ドスンという音)を回避できます。

USB-C コンピュータージャック

コンピュータを介して ProFX10 GO ミキサーとの間でオーディオをストリーミングできるインターフェースです。

USB ケーブルの USB-C 側を ProFX10 GO ミキサーに接続し、USB-A 側をコンピュータの USB ポートに接続してください。



お使いのコンピュータの「設定」で、入力と出力を「ProFX10 GO」に変更してください。

ProFX10 GO の USB 接続はオーディオ専用です。他機器への電源供給には対応していません

トップパネル

ProFX10 GOミキサーのトップパネルには、多数のノブ、ボタン、フェーダー、ジャック、スクリーンなどが装備されています。

XLRフォン・コンボ入力ジャック



最初の 2 つの入力チャンネルは、XLR コネクタを使用して、バランス型マイクまたはラインレベルの信号を入力できます。

XLRマイク入力ジャック



バランス接続されたマイクまたはラインレベル入力に対応するXLR(メス)コネクタです。これらのマイクプリアンプは、単体マイクプリアンプに匹敵する高い忠実度とヘッドルームを備えています。この回路は、ハムノイズや雑音の除去に優れています。



アンプの出力端子をミキサーの入力端子に直接接続しないでください。入力回路が損傷するおそれがあります。

1/4"ライン入力ジャック



マイクプリアンプと回路(ファンタム電源は除く)を共有しており、あらゆるレベルのバランスまたはアンバランスソースから駆動できます。バランスラインをこれらの出力に接続するには、1/4 インチの TRS プラグを使用してください。



アンプの出力端子をミキサーの入力端子に直接接続しないでください。入力回路が損傷するおそれがあります。

1/4 インチ・ステレオライン入力ジャック



ステレオライン入力は、1/4 インチ TRS バランス信号または 1/4 インチ TS アンバランス信号用に設計されています。

ラインレベルの楽器、エフェクトデバイス、CD プレーヤーなど、あらゆる機器に接続できます。

モノラルソースを接続する場合は、L (MONO) 入力を使用してください。モノラル信号はメインミックスの左右のチャンネルから出力されます。

これらの入力にバランスラインを接続するには、1/4 インチの TRS プラグを使用してください。これらの入力にアンバランス・ラインを接続するには、1/4 インチの TS フォンプラグを使用してください。



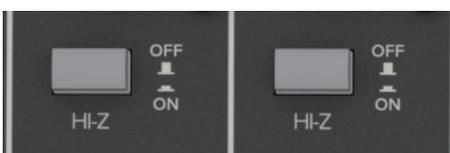
アンプの出力端子をミキサーの入力端子に直接接続しないでください。入力回路が損傷するおそれがあります。

1/8 インチ・ステレオライン入力ジャック



この 1/8 インチステレオ入力は、スマートフォン、タブレット、MP3 プレーヤー、CD プレーヤー、その他の信号源からのステレオまたはモノラルラインレベルの信号を入力できます。

ライン / ハイ・インピーダンス切り替えスイッチ [チャンネル 1、2]



DIボックスを使用せずにギターやベースをミキサーに直接接続します。まずこのスイッチをONにしてから、楽器の出力端子をチャンネルの 1/4 インチ TRS 入力端子に接続してください。

OFFの位置では、チャンネルの 1/4 インチ TRS 入力端子は、他のモノラルライン入力端子と同様にライン入力になります。

他のチャンネルでギターなどハイインピーダンスの機器を接続するには、まず外部DIボックスを使用する必要があります。DIボックスを使用しないと、ギターは鈍く、濁った音になります。

ローカットスイッチ



マイク入力のあるすべてのチャンネルには、低域カットスイッチ（ハイパスフィルターとも呼ばれる）が搭載されており、100 Hz 以下の低域を 1 オクターブあたり 18 dB の割合でカットします。

キックドラム、ベースギター、低音シンセのパッチを除き、すべてのマイクにローカットの使用をお勧めします。

ローカットを使用すると、低域が整理され、よりクリアで味わい深いものになります。さらに、ローカットはライブでのフィードバックの可能性を減らし、アンプのパワーを抑える効果もあります。



ライブ・パフォーマンス時にもローカットを効果的に使えます。

ローカットを追加して、ボーカルにローイコライザーを安全に使用できます。多くの場合、低域のシェルビングEQはボーカルに大きな効果をもたらします。問題なのは、ローEQを追加すると、各種ノイズもかなり低い位置からブーストされてしまいます。ローカットをかけると、これらの問題がすべて取り除かれるので、ウーファーを壊さずにローEQをかけられます。

1/4" インサートジャック



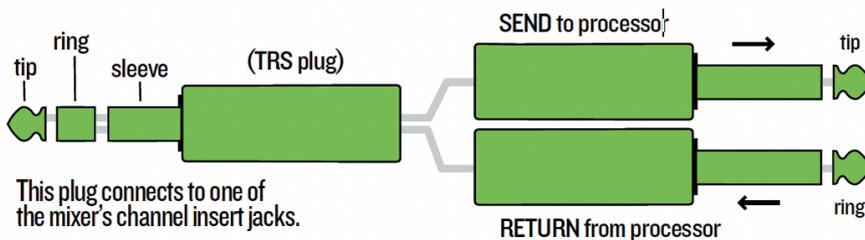
アンバランス 1/4 インチジャックは、コンプレッサー、イコライザー、ディエッサー、フィルターなどの直列して繋ぐエフェクトプロセッサを接続します。

インサートされる信号は、ゲインコントロールとローカットフィルターの後、チャンネルEQ およびレベルの前になります。チャンネルの信号は、インサートジャックから外部デバイスに出力され、そこで処理された後、同じインサートジャックに戻ります。

これを行うには、次のように配線された標準のインサートケーブルが必要です。



ミキサーから取り出す信号に過負荷をかけたり、短絡させたりしないでください。内部信号に影響を与えます。



インサートジャックは、チャンネルのダイレクト出力としても使用できます。TS（モノラル）1/4 インチプラグをインサートジャックに浅く（最初のクリックまで）挿入した場合、ミキサー内部の信号に影響を与えず、パラレルアウトとして分岐した音を外部に取り出せます。

1/4 インチ TS プラグを 2 回目のクリックまで押し込むと、ミキサーからのダイレクトアウトになり、そのチャンネルの信号はミキサーの内部回路から外れ、外部に出力されます。

ゲインノブとLEVEL SET LED



「U」はユニティゲインの「U」です。ProFX10 GO ミキサーの多くのレベルコントロールには「U」の記号が付いています。これは「ユニティゲイン」を意味し、信号レベルに減衰や増幅がないのを示しています。

ゲインを正しく設定すれば、プリアンプのゲインが上がり過ぎて歪みが生じたり、下がり過ぎて繊細なパッセージがノイズに埋もれてしまったりしません。

ゲインノブは、「LEVEL SET」LEDを確認しながら、マイクおよびライン入力の入力感度を調整します。

これにより、外部からの信号を、各チャンネルに最適な内部動作レベルで接続するように調整できます。

信号がマイク XLR ジャックから入力されている場合、ノブを完全に絞った状態でゲインは 0 dB、完全に上げた状態で +60 dB になります。

1/4 インチのモノラルライン入力では、ノブを完全に下げると -20 dB の減衰、完全に上げると 40 dB の増幅となり、12時 の位置ではユニティゲイン「U」になります。

この 20 dB の減衰は、強い信号を入力する場合や、EQ ゲインを追加する場合に便利です。

減衰がないと、チャンネルがクリップする可能性が高くなります。



1/8 インチステレオ入力ゲインノブを除く、すべてのゲインノブの隣には、LEVEL SET LED があります。これらの LED は、ゲインコントロールと組み合わせて、各ソースに最適なチャンネルプリアンプゲインを設定するために使用されます。

1 つ以上のチャンネルで歪みが発生している場合は、レベル設定 LED を確認してください。LED が継続的に点灯している場合は、ゲインを下げてください。

コンプレッサーノブ

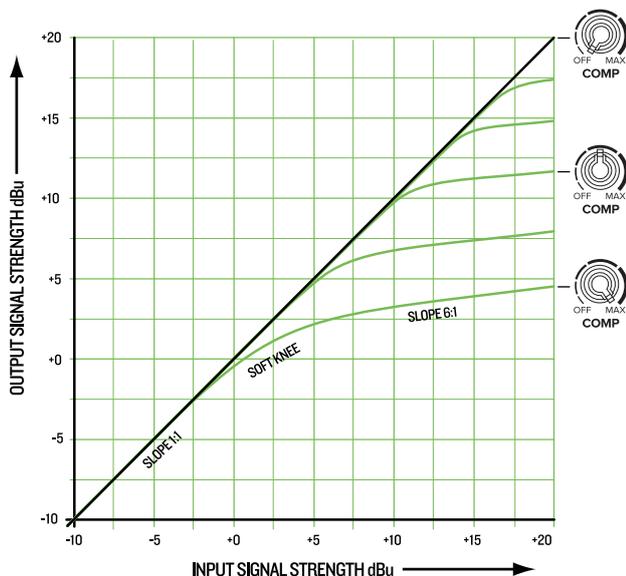


ProFX10 GO ミキサーのチャンネル 1~2 には、可変スレッシュホルドのコンプレッサー回路が搭載されています。

これは、ボーカルやスネアドラムなどに有効ですので、ボーカルやドラムのマイクはチャンネル1-2への接続を検討してください。

このノブで設定したスレッシュホルドレベルを超える入力信号が入力されると、信号へ自動的にコンプレッサーがかかります。

これにより、ダイナミックレンジが抑えられ、入力信号の過負荷による歪みが軽減されます。



例えば、スレッシュホルドが最大に設定されている場合を考えてみましょう。

入力信号が 0 dBu のスレッシュホルドに達すると、スレッシュホルドを超えた分だけ、6:1 の比率でコンプレッサーがかかります。つまり、入力がさらに 6 dB 増加しても、実際の出力は 1 dB しか増加しません。これにより、一般的なポップノイズ、衝撃音、叫び声などによる歪みや過負荷からシステムを確実に保護できます。ソフトニーとは、コンプレッサーがしきい値から 6:1 まで徐々に圧縮がかかることを意味します。

上のグラフは、コンプレッサーに入力された信号レベルと、コンプレッサーから出力された信号レベルの関係を示しています。

コンプレッサーが OFF の場合、入力 = 出力となります。たとえば、入力信号レベルが +5 dBu の場合、出力レベルは +5 dBu になります。

左下から右上への対角線は $x = y$ 、つまり入力 = 出力を表しています。

最大コンプレッション設定では、スレッシュホルドは 0 dBu に設定され、入力と出力の関係は一番下の曲線で表されます。入力が -5 dBu (つまりスレッ



ダイナミックレンジとは、曲の最も静かな部分と最も大きな部分の音量差です。コンプレッサーはダイナミックレンジを「圧縮」し、信号全体の音量をより安定させ、一定に整えます。

これにより、ボーカルなどの音源がミックスに適切に「収まる」ようになり、ライブサウンドでも非常に役立ちます。

コンプレッション比は 6:1 程度に固定されており、いわゆるソフトニー特性です。スレッシュホルドは、OFF (コンプレッサーなし) から 0 dBu (最大) まで時計回りに調整できます。

シールド以下) の場合、出力は -5 dBu になります。入力が 0 dBu に達すると、出力は 0 dBu よりわずかに小さくなります。入力が +5 dBu の場合、出力は約 +2 dBu になります。入力が +10 dBu に達すると、出力は +3 dBu になります。スレッシュホルドを超えるとすぐに 6:1 のコンプレッションがかかるわけではなく、徐々にコンプレッションがかかります。

アウトボードのコンプレッサーには、多くの場合、圧縮比、スレッシュホルド、ソフトニー/ハードニー、アタックタイム、リリースタイムなどのコントロールがあります。このミキサーのコンプレッサーでは、これらのパラメーターは、バランスの良いパフォーマンスが得られるようにあらかじめ設定されています。

スレッシュホルドは、パフォーマンス中に歪みや過負荷が発生せず、理想的なダイナミックレンジになるように調整します。本番前に、叫び声や高音域を試してみて、コンプレッサー設定を調整してください。

チャンネルイコライザー(EQ)



ProFX10 GO ミキサーは、シェルビングハイ、ピークミッド、シェルビングローの3バンドEQを搭載しています。3バンドEQは、ローシェルビング 80 Hz、ミッドピークは 2.5 kHz、ハイシェルビングは 12 kHz に設定されています。

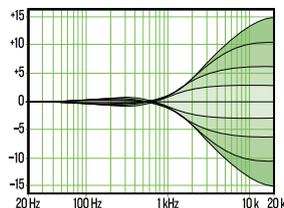
シェルビングとは、指定した周波数以下のすべての周波数をブーストまたはカットします。たとえば、低域 EQ は 80 Hz 以下の低音域を、聞こえない最低音域までブースト/カットします。ピークとは、特定の周波数が中心周波数の周りを「丘」のようにをブースト/カットします。



EQ をかけすぎると、音全体が乱れてしまいます。EQ は慎重に調整し、ブーストだけでなくカットも使用してください。多くのイコライジングが必要となる場合は、マイクの位置や種類を変える、別の楽器を選択する、楽器のエフェクトやアンプ設定を見直すなど、音源自体の見直しを検討してください。

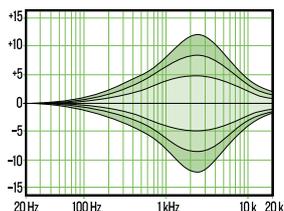
EQ回路はCal Perkins氏の設計をベースにしています。この「ネオクラシック」な設計は、プリティッシュEQサウンドの甘美な音楽性を実現しながら、15 dB のブーストとカット、最適なQ、最小限の位相のずれ（コントロール性に優れ、耳に心地よいサウンドを実現）を維持しています。

HI EQノブ



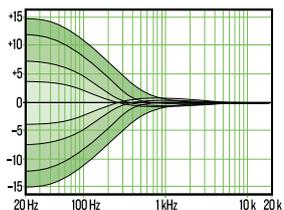
12 kHz 以上で最大 15 dB のブーストまたはカットが可能で、シンバルにシズル感を加えたり、全体的な透明感を高めたり、キーボード、ボーカル、ギター、にエッジを付けたりするために使用します。少し下げると、シビランス（歯擦音）を低減したり、テープのヒスノイズをマスクしたりできます。

MID EQノブ



2.5 kHz を中心として最大 15 dB のブーストまたはカットが可能で、中域EQ は、特定のサウンドを確立する周波数がほとんどこの範囲にあるため、効果が最もダイナミックです。このノブを上下に回して、さまざまな興味深い EQ の変化を作成できます。

LOW EQノブ



80 Hz以下で最大15 dBのブーストまたはカットが可能です。この周波数は、バスドラム、ベースギター、太いシンセパッチ、男性歌手のパンチのある声を表現します。

FXノブ



各チャンネルの信号から、内部 FX プロセッサーに送る量を設定したり、FX センドを通じて外部プロセッサーに信号を送信します。

コントロールは、完全に下げるとオフになり、中央のクリック位置でユニティゲインとなり、完全に上げると最大 10 dB のゲインを得られます。

ここから送られる信号はポストフェーダーであり、ミュート、チャンネルフェーダー、および他のチャンネルコントロールは FX 出力に影響しますが、PANは影響しません。

内部 FX プロセッサーおよび FX 送信出力ジャックに送られる FX 信号は、すべてのチャンネルで設定された信号のミックスです。

メインミックスへの内部FXリターンレベルは、FXマスターレベルノブで調整できます。FXマスターレベルノブは、FX SENDには影響を与えません。

PANノブ



このコントロールは、チャンネルの信号をどの程度左右に振るかを調整します。

PANコントロールは「コンスタントラウドネス」と呼ばれる設計を採用しています。チャンネルを完全に左(または右)にPANしてから中央にPANすると、同じ音量感を保つために信号が約 3 dB 減衰します。そうしないと、中央にPANすると音が大きく聞こえるようになるためです。

MUTEスイッチ



MUTEスイッチは、そのチャンネルの信号を遮断します。チャンネルのMUTEスイッチをオンにすると、フェーダーを完全に下げたのと同じ結果になります(ただし、AUX プリセンドはチャンネルフェーダーの影響を受けませんが、ミュートスイッチの影響を受けます)。

チャンネルがミュートされている場合でも、チャンネルインサートからは信号を供給し続けます。ミュートスイッチは、オンになると赤く点灯します。

チャンネル LEVEL ノブ



これはチャンネルの信号経路の最後のコントロールで、メインミックスへ出力する各チャンネルのレベルを調整します。「U」マークはユニティゲインを示し、信号レベルが増減しないの意を意味します。曲の一部をブーストする必要がある場合は、最大まで上げると 10 dB が追加されます。レベルがユニティ付近でも音量が小さすぎたり大きすぎたりする場合は、ゲインコントロールが正しく設定されているのを確認してください。

USB 3-4 切り替えスイッチ



このスイッチをオンにすると、チャンネル 7/8 が無効になり、USB リターン (Spotify® や DAW からの USB 接続によるステレオ再生など) の信号が、代わりに流れるようになります。他の入力と同様に、この信号も EQ 処理や他の信号とのミキシングが可能で、メイン出力にアサインできます。



USB 3/4 リターンスイッチに関する情報 (セットアップのヘルプ、その他のヒントやコツなど) は、後述されています。

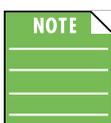
Bluetooth スイッチ



スイッチをオンにすると、ペアリングモードが有効になり、ミキサーが携帯電話やタブレットなどの他の Bluetooth デバイスから認識されるようになります。

ミキサーは、チャンネルごとに 1 つの入力しか受け付けません。Bluetooth がオフの場合、ミキサーはアナログ入力信号を使用できます。ただし、Bluetooth 経由で接続している場合は、Bluetooth 信号が優先されます。

ペアリングと接続 - Bluetooth ボタンを数秒間押し続けると、ボタンが青色に点滅し、ペアリングモードに入ります。ペアリングモードになっていると、スマートフォンまたはタブレットの「利用可能なデバイス」リストに ProFX10 GO が表示されます。それを選択してください。すると、デバイスが正常に接続されたのを示すメッセージが表示され、ミキサーの Bluetooth ボタンが点滅から点灯に変わります。



デバイスとミキサーの両方の電源がオンで、通信範囲内にある場合、以前にペアリングしたデバイスは自動的に再接続されます。

静電気などの影響により、Bluetooth が切断される場合があります。その場合は、Bluetooth を手動で再接続してください。

FOOT SWITCH



この 1/4 インチ TRS コネクタにフットスイッチを接続できます。

これにより、内部エフェクトを自由にミュート/ミュート解除できます。1極1ボタン式の ON/OFF フットスイッチ (ラッチ式) に対応します。

ただし、内部 FX が内部 FX ミュートスイッチで既にミュートされている場合、フットスイッチは機能しません。

L/R MAIN OUTS ジャック



メイン出力は、ラインレベルのステレオ信号が送り出されます。これらを、メインのパワーアンプ、パワードスピーカー、または直列接続のエフェクトプロセッサなどの左右の入力に接続してください。メイン出力は、バランス XLR コネクターに加え、バランスまたはアンバランスの 1/4 インチコネクターも備えています。



XLR出力はTRS出力よりも6 dB大きいレベルです。メーターが「0」を表示している場合、TRS出力は0 dBuです。

1/4 インチ・ヘッドホン出力ジャック



ステレオヘッドホン出力です。音量は、PHONESノブで調整します。



警告:大きな音量により、聴覚に永久的な損傷を与えるおそれがあります。ヘッドホンでは、中程度の音量でも耳に痛いほど大きな音になる場合があります。ご注意ください。ヘッドホンを接続したり、ソロスイッチを押すなど、ヘッドホンの音量に影響を与える可能性のある操作を行う場合は、必ずヘッドホンの音量コントロールを最小にしてください。その後、ゆっくりと音量を上げて調整してください。

「To Phones / Control Room」スイッチがオンになっている場合、USB リターンからの音をミックスしてフォンジャックから出力します。

1/4 インチ・ヘッドホン出力ジャック



これらの 1/4 インチジャックは、コントロールルームのアンプまたはヘッドホン分配アンプの入力に接続されます。

コントロールルームの出力は、他の用途にも使用できます。音質はメイン出力と同様です。追加のメインミックス出力として使用でき、この出力には独自のレベルコントロールが備わっています。



「To Phones / Control Room」スイッチがオンになっている場合、USB リターンからの音をミックスして出力します。

1/4 インチ・FX SENDジャック



この 1/4 インチ TRS ラインレベル出力は、外部エフェクトプロセッサなどに信号を送るために使用できます。このジャックからの出力は、AUX FX コントロールが最小以上になっているすべてのチャンネルをミックスした、内部 FX プロセッサに入力されている信号と同様です。

(内部 FX の処理された出力は、この出力からは出力されませんが、内部でメインミックスに追加されます。)

出力は「ポストフェーダー」であるため、チャンネルレベルを変更すると、外部プロセッサへの出力レベルも変化します。

エフェクトプロセッサにより処理された信号は通常、空いているチャンネルに戻します。これにより、処理されていない元のチャンネル(ドライ)と処理されたチャンネル(ウェット)をミックスできます。元のチャンネルのフェーダーを変更すると、ウェット信号とドライ信号の両方が増減します。

1/4 インチ・FX SENDジャック



ほとんどの業務用コンデンサーマイクは、48V のファンタム電源を必要とします。この電源により、ミキサーは、オーディオを伝送する同じ配線を通して、低電流の直流電圧をマイクの電子回路に送れます。

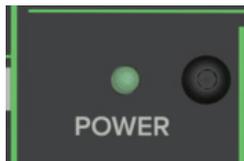
マイクにファンタム電源が必要な場合は、このスイッチを押してください(マイクを接続する前に、必ずこのスイッチの位置を確認してください)。付属の LED が赤く点灯し、ファンタム電源が有効になっているを示します。

これは、すべてのマイクチャンネルの XLR ジャックに同時に影響します。



ファンタム電源がオンになっている場合は、シングルエンド(アンバランス)マイクやリボンマイクをマイク入力ジャックに接続しないでください。ファンタム電源がオンになっている状態で、楽器の出力端子をマイクの XLR 入力ジャックに接続しないでください。ファンタム電源がオンになっている状態でマイクをマイク入力に接続する場合は、スピーカーにポップノイズが流れないように、メインミックスレベルノブを必ず下げてください。

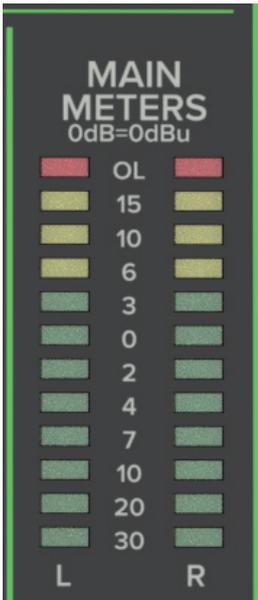
POWER(電源)LED



この LED は、電源がオンになると緑色に点灯します。点灯していない場合は、電源がオフになっているのを意味します。

点灯しない場合は、電源コードが正しく差し込まれている、現地の AC 電源が有効である(またはバッテリーが充電されている)、電源スイッチがオンになっているのを確認してください。

メインメーター



このピークメーターは、3色の12個のLEDが2列に並んだもので、信号レベルの範囲を信号機のように表示します。下段は〜30、中央は0、上段はOL(オーバーロード)です。

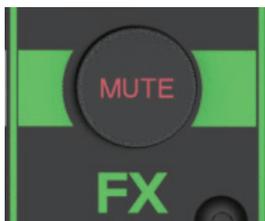
メーターが−20〜+10 dBの間でピークが点滅している状態で、良いミックスを得られます。ほとんどのアンプは+10 dBu 程度でクリップし、レコーダーには余裕のないものもあります。実環境での最良の結果を得るには、ピークを「0」と「+6」の間に保つよう to してください。オーディオメーターは、レベルが「おおよその目安」であるのを確認するためのツールです。

FXマスターレベルノブ



このノブは、メイン出力への内部FXリターンレベルをコントロールします。完全に上げるとFX成分が最大(+10dB)になり、最小にするとドライ(FXなし)になります。FX SENDには影響を与えません。

FXミュートスイッチ

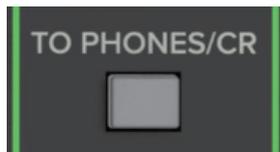


このスイッチをオンにすると、内部エフェクトプロセッサがミュートされ、その出力はメインミックスには出力されません。

このスイッチがオフ(ミュート解除)の場合、内部エフェクトは必要に応じてメインミックスに追加できます。

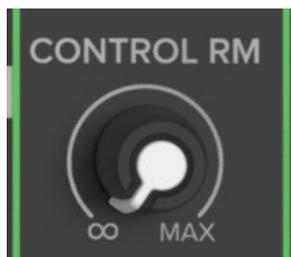
このスイッチがオフ(ミュート解除)の場合、内部エフェクトはフットスイッチでミュート / 解除できます。

To Phones / Control Room スイッチ



デフォルトでは、コントロールルームとフォンジャックはメインミックスを出力します。USBからの信号が必要な場合は、このスイッチを押してください。

CONTROL RM ノブ



このノブは、コントロールルームの出力のボリュームを ∞(OFF) から最大ゲイン (MAX) まで調整するために使用されます。

新しいソースを選択・追加する前に、このノブが完全にOFFになっているのを確認してください。

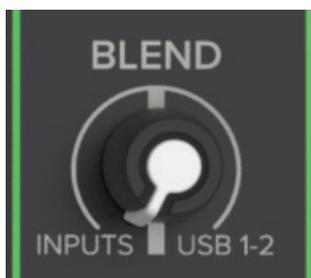
PHONES ノブ



このノブは、∞(オフ)から最大ゲイン(max)まで、ヘッドフォン出力の音量を調整するために使用します。新しいソースを選択・追加する前に、このノブが完全にOFFになっているのを確認してください。



警告:大きな音量により、聴覚に永久的な損傷を与えるおそれがあります。ヘッドホンでは、中程度の音量でも耳に痛いほど大きな音になる場合があります。ご注意ください。ヘッドフォンを接続したり、ソロスイッチを押すなど、ヘッドホンの音量に影響を与える可能性のある操作を行う場合は、必ずヘッドホンの音量コントロールを最小にしてください。その後、ゆっくりと音量を上げて調整してください。



To Phones / Control Roomスイッチがオンになっている場合、このノブによりメインミックス と USB 1-2 リターンをブレンドして、Phones および Control Room 出力に送ります。

たとえば、事前に録音したトラックと一緒にオーバーダビングをして、レコーディングする場合などに、このノブを使用します。

ノブ 位置:

左に回しきった場合 - メインミックス = 最大音量、USB リターン = なし

中央 - 入力および USB リターン = 同じ音量

右に回しきった場合 - メインミックス = なし、USB リターン = 最大音量

MAIN MIX LEVEL ノブ



このステレオノブにより、XLR および 1/4 インチのメインラインレベル出力に送られるメインミックス信号のレベルを調整できます。

これにより、メインに送られるサウンドレベルをコントロールできます。

メーターを注意深く見ながら、過負荷にならないようにこのコントロールを慎重に調整し、耳でレベルを確認して、観客が満足しているかどうかを確認してください。

ノブを完全に下げるとメインミックス信号は OFF になり（「U」のマークはユニティゲイン、）ノブを完全に上げると 10 dB の追加ゲインが得られます。

このノブは、メインミックスの左右両方に等しく影響します。このコントロールは、曲の最後でゆっくりと音量を下げたい場合（フェードアウト）に最適です。

このコントロールは、FX 送信出力には影響しません。

MAIN MUTE スイッチ



このスイッチは、バンドがステージの合間に、メインアウト、CRアウト、およびフォンに接続されているすべてのマイクとラインレベル入力を素早くミュートします。

FX送信には影響を与えません。システムから音が出ない場合は、まずこのスイッチを確認してください。

GIGFX+ エフェクトエンジン

プリセットディスプレイ

FX、プリセット、その他のパラメーターなどの情報を表示します。

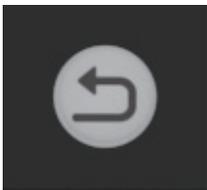
スタジオ・コマンド・コントロールノブ

ディスプレイには FX、プリセット、その他のパラメーターが表示されますが、これらのフィールドにアクセスするには、プッシュボタン式ロータリーエンコーダーを使用します。

変更したいパラメーターがハイライトされるまでノブを回転させ、エンコーダーを押し込み、変更を行います。



バックボタン



バックボタンは、FXリストと現在のエフェクト間を移動するためのナビゲーションツールとして使用します。

バックボタンを長押しすると、12 のエフェクトが 2 列に 6 つずつ表示されます。ここから、コマンドコントロールノブを回して、12 種類のプリセットエフェクトの中から 1 つを選択できます。

これらのプリセットエフェクトは、好みに合わせて更新や微調整ができます。

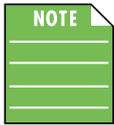
現在選択されているエフェクトプリセットはディスプレイに表示されます。一度に選択できるプリセットは1つだけです。

| Number | Effect |
|--------|-----------------|
| 1 | DELAY |
| 2 | ECHO |
| 3 | SLAPBACK |
| 4 | HALL REVERB |
| 5 | ROOM REVERB |
| 6 | PLATE REVERB |
| 7 | CHORUS 1 |
| 8 | CHORUS 2 |
| 9 | FLANGER |
| 10 | DELAY + REVERB |
| 11 | DELAY + CHORUS |
| 12 | REVERB + CHORUS |

工場出荷時設定へのリセット

ProFX10 GO を工場出荷時設定にリセットすると、ほとんどのパラメーターがデフォルトに戻ります。すべての FX パラメーターおよび保存されているプリセットが含まれます。このリセットは元に戻せません。

では、ミキサーを工場出荷時のデフォルト設定に戻すにはディスプレイに Mackie Running Man が表示されるまで、Studio コマンドコントロールノブと Back ボタンを同時に押し続けてください。



工場出荷時設定へのリセットの他に、FX EQ のリセットがあり、方法も効果も異なります。

FXセクション

ProFX10 GOのFX エンジンには、数多くの機能を備えています。12 種類のエフェクトから選択し、それぞれを好みに合わせて調整できます。

以下に、12 種類のエフェクトのタイプと、各プリセットの説明および例をまとめました。エフェクトは 4 セット (3 つずつ) で表示されています。

- エフェクト 1-3 - デイレイ - バーチャルノブの色 = 青
- エフェクト 4-6 - リバーブ - バーチャルノブの色 = 赤
- エフェクト 7-9 - モジュレーション - バーチャルノブの色 = 紫
- エフェクト 10-12 - マルチFX - バーチャルノブの色 = 黄色

1. デイレイ

このエフェクトは、タイム設定で定義された時間間隔で、ソース信号を均等に繰り返し再生します。フィードバックコントロールにより、リピートの回数を増減します。

これは、ロックのような、明るくアップビートな音楽で最も効果を発揮します。

2. エコー

このタイプのデイレイエフェクトは、ソース信号を 2 回繰り返します。峡谷で反射する声のように、2 回繰り返されるのが特徴です。繰り返し回数とタイミングは、タイムとフィードバックの設定で決定します。

別名「スラップバックエコー」とも呼ばれ、ボーカルやギターを、音量を上げずにミックスの中で際立たせます。

3. スラップバック

このエフェクトは、フィードバック設定により、元の信号を 1 回または 2 回、比較的高速で、最小限の繰り返しで遅延させます。

スラップバックは、一般的に 50 年代のロックロールのボーカルやドラムを模倣するために使用されます。

4. ホールリバーブ

このリバーブは、大きく広々としたサウンド、長いプリディレイ、そして活力のあるトーンが特徴です。

ソロからフルオーケストラや合唱まで、アコースティック楽器やボーカルに活力を与えます。

5. ルームリバーブ

このプリセットは、中程度の大きさの部屋のサウンドを特徴とし、低音域をほどよく強調して、温かみのあるトーンを生み出します。

あらゆる楽器やボーカルソースを、レコーディングスタジオのようなアコースティックな空間で録音したかのように聴かせたい場合に便利です。スネア、ホーンセクション、アコースティック・ギターなどに試してみてください。

6. プレートリバーブ

プレートリバーブは、金属板で生成されるヴァインテージの機械的な残響をエミュレートします。そのサウンドは、初期反射が多く、プリディレイがないのが特徴です。

タンバリン、手拍子、バックボーカルなどのパーカッションに長いサステインを加えるのに最適です。

7. コーラス 1

8. コーラス 2

ミックスを厚くしたり、特定のサウンドを際立たせるのに役立つ、柔らかく、幻想的なスイープエフェクトを提供します。

エレКТリックおよびアコースティック・ギター、ベースのエンハンスメント、あるいはボーカル、特にグループ・ハーモニーや合唱にドラマチックなエフェクトを加えるのに最適です。

9. フランジャー

フランジャーエフェクトは、時間的にずれた同じ音を重ね、そのズレを周期的に変化させ、特徴的な「シュワーツ」という音を生み出します。

10. デイレイ + リバーブ

ロック、シューゲイザー、実験的なロックサウンドを採用しているバンドに最適です。

11. デイレイ + コーラス

ピンク・フロイドのギタリスト、デヴィッド・ギルモアは、このエフェクトを自分のセットアップでよく使用していました。

12. リバーブ + コーラス

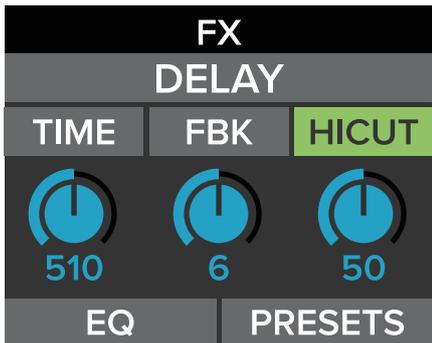
このプリセットで、サウンドを厚くできます。

コーラスは、通常の信号とブレンドされた、わずかにデチューンされた信号を作成し、リバーブは、さまざまなサイズの会場の音響をエミュレートします。

DELAY



プリセットディスプレイに、ディレイエフェクトの現在のパラメーターが表示されます。



Delay は、ディレイエフェクトを調整します。ProFX10 GO ミキサーには、ディレイ、エコー、スラップバックの 3 種類のディレイが搭載されています。

各ディレイで変更できるパラメーターは、タイム、フィードバック、ハイカットです。

さらに、各エフェクトには EQ セクションと、プリセットとしてカスタム FX を保存および読み込むためのスポットがあります。

仮想ノブの上にある 3 つの選択肢(タイム、フィードバック、ハイカット)がハイライトされ、スタジオコマンドコントロールノブを回転させて選択、ノブを押して操作するパラメーターを決定します。

ここから、ノブを再び回して、選択したパラメーターの値を好みに合わせて調整します。

希望の設定に達したら、ノブをもう一度押して確定します。



Time

現在のディレイタイムを 20 ミリ秒から 1000 ミリ秒の範囲でミリ秒単位で設定できます。

FBK(Feedback)

フィードバック - 遅延信号をルーティングして複数のエコーを作成します。0 から 13 までの範囲で設定できます。信号がフィードバックされるたびに、遅延信号は徐々に小さくなります。

HI CUT

ディレイ信号の高域をカットします。0 から 100 までの範囲で設定できます。値が高いほどカットされる高域の量が増えます。

FX EQ



EQ がハイライトされるまでノブを回転させ、押し込んで EQ 画面を表示します。

ここで変更できる EQ パラメーターは、FREQ (周波数)、WIDTH (幅)、GAIN (ゲイン)、LPF (ローパスフィルター)、HPF (ハイパスフィルター) です。

これは、選択したエフェクトの EQ です。

バーチャルノブの上にある5つの選択を選び、ノブを押して操作するパラメーターを決定します。



ここから、ノブを再び回して、選択したパラメーターの値を好みに合わせて調整します。

希望の設定に達したら、ノブをもう一度押して確定します。

FREQ

周波数 - このパラメーターの値は、選択したエフェクトの周波数を決定します。400 Hz から 16.0 kHz までの範囲で設定できます。

WIDTH

幅 [別名「Q」] - Q コントロールは、フィルターの帯域幅を調整します。Q 値が大きいほど帯域幅は狭くなります。下の表は、Q 値と帯域幅の割合の相当値の一覧です。設定範囲は0.5 から 3 までです。

GAIN

ゲイン - 選択したエフェクトに適用されるゲインの量を決定します。設定範囲は -8 dB から +8 dB です。

LPF

ローパスフィルター - 高域をカットします。設定範囲は 6.0 kHz から 18.0 kHz です。

HPF

ハイパスフィルター - 低域をカットします。設定範囲は 80 Hz から 600 Hz です。

| Q | Bandwidth (Octave) |
|-------|--------------------|
| 0.7 | 2 |
| 1.414 | 1 |
| 2.145 | 2/3 |
| 2.871 | 1/2 |

Delay Parameters and Values

| Parameter | Low Value | High Value | Default | Increments |
|-----------|-----------|------------|---------|--------------|
| Time | 20 ms | 1000 ms | 363 ms | ±10 ms |
| Feedback | 0 | 13 | 2 | ±1 |
| Hi Cut | 0 | 100 | 78 | ±1 |
| EQ | - | - | - | - |
| Frequency | 400 Hz | 16.0 kHz | 7.9 kHz | Variable |
| Width (Q) | 0.5 | 3.0 | 0.5 | ±0.1 |
| Gain | -8 dB | +8 dB | +1 dB | ±1 dB |
| LPF | 6.0 kHz | 18.0 kHz | 6.0 kHz | ±0.1-0.2 kHz |
| HPF | 80 Hz | 600 Hz | 120 Hz | ±1-10 Hz |

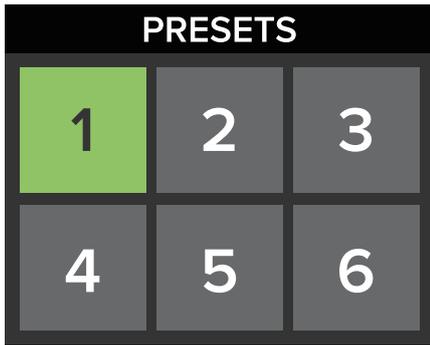
Echo Parameters and Values

| Parameter | Low Value | High Value | Default | Increments |
|-----------|-----------|------------|---------|--------------|
| Time | 140 ms | 1000 ms | 553 ms | ±10 ms |
| Feedback | 0 | 17 | 6 | ±1 |
| Hi Cut | 0 | 100 | 77 | ±1 |
| EQ | - | - | - | - |
| Frequency | 400 Hz | 16.0 kHz | 1.0 kHz | Variable |
| Width (Q) | 0.5 | 3.0 | 2.0 | ±0.1 |
| Gain | -8 dB | +8 dB | ±0 dB | ±1 dB |
| LPF | 6.0 kHz | 18.0 kHz | 7.0 kHz | ±0.1-0.2 kHz |
| HPF | 80 Hz | 600 Hz | 100 Hz | ±1-10 Hz |

Slapback Parameters and Values

| Parameter | Low Value | High Value | Default | Increments |
|-----------|-----------|------------|----------|--------------|
| Time | 80 ms | 400 ms | 96 ms | ±3-4 ms |
| Feedback | 0 | 2 | 0 | ±1 |
| Hi Cut | 0 | 100 | 100 | ±1 |
| EQ | - | - | - | - |
| Frequency | 400 Hz | 16.0 kHz | 1.0 kHz | Variable |
| Width (Q) | 0.5 | 3.0 | 2.0 | ±0.1 |
| Gain | -8 dB | +8 dB | ±0 dB | ±1 dB |
| LPF | 6.0 kHz | 18.0 kHz | 12.1 kHz | ±0.1-0.2 kHz |
| HPF | 80 Hz | 600 Hz | 80 Hz | ±1-10 Hz |

FXプリセット



プリセットセクションでは、最大 6 つの設定をメモリに保存できます。

コマンドコントロールノブを回して「Presets」がハイライトされるまで回します。

次に、ノブを回して 6 つのプリセットを切り替え、ノブを押して選択します。

ノブを回すと「RECALL (呼び出し)」と「SAVE (保存)」が切り替わり、ノブを押すと、現在ハイライトされている選択項目が実行されます。



SAVE - 現在の設定を保存するには、これを選択してください。

過去の設定は消去され、新しい設定に置き換わります。

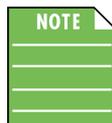
Recall - プリセットの設定を呼び出します

FX EQ リセット



「Reset」がハイライトされたら、コントロールノブを押して、すべての EQ 設定をリセットします。FX EQ をリセットすると、以下のパラメーター値になります。

FREQ 1.0 kHz
WIDTH 2.0
GAIN ± 0 dB
LPF 18.0 kHz
HPF 80 Hz



FX EQ のリセットと工場出荷時設定へのリセットは異なります。



DECAY

リバーブのディケイタイムです。選択範囲は選択したリバーブによって異なります。

SIZE

リバーブの量(または「部屋の大きさ」)を表します。選択範囲は選択したリバーブによって異なりますが、0 はリバーブなし、時計回りに回しきるとリバーブが最大になります。

HI CUT

ディレイ信号にローパスフィルターをかけ、出力の高域をカットします。0 から 100 までの範囲で設定できます。

Hall Reverb Parameters and Values

| Parameter | Low Value | High Value | Default | Increments |
|-----------|-----------|------------|---------|--------------|
| Decay | 0 | 60 | 15 | ±1 |
| Size | 0 | 15 | 12 | ±1 |
| Hi Cut | 0 | 100 | 0 | ±1 |
| EQ | - | - | - | - |
| Frequency | 400 Hz | 16.0 kHz | 1.0 kHz | Variable |
| Width (Q) | 0.5 | 3.0 | 2.0 | ±0.1 |
| Gain | -8 dB | +8 dB | +0 dB | ±1 dB |
| LPF | 6.0 kHz | 18.0 kHz | 8.7 kHz | ±0.1-0.2 kHz |
| HPF | 80 Hz | 600 Hz | 132 Hz | ±1-10 Hz |

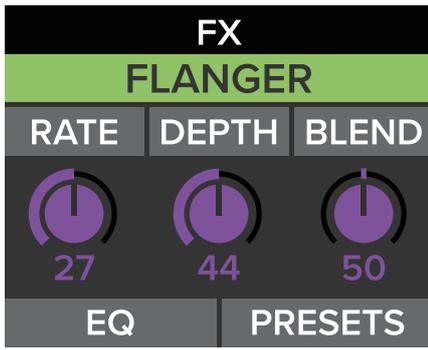
Room Reverb Parameters and Values

| Parameter | Low Value | High Value | Default | Increments |
|-----------|-----------|------------|----------|--------------|
| Decay | 0 | 52 | 3 | ±1 |
| Size | 0 | 25 | 12 | ±1 |
| Hi Cut | 0 | 100 | 0 | ±1 |
| EQ | - | - | - | - |
| Frequency | 400 Hz | 16.0 kHz | 1.0 kHz | Variable |
| Width (Q) | 0.5 | 3.0 | 2.0 | ±0.1 |
| Gain | -8 dB | +8 dB | +0 dB | ±1 dB |
| LPF | 6.0 kHz | 18.0 kHz | 13.3 kHz | ±0.1-0.2 kHz |
| HPF | 80 Hz | 600 Hz | 190 Hz | ±1-10 Hz |

Plate Reverb Parameters and Values

| Parameter | Low Value | High Value | Default | Increments |
|-----------|-----------|------------|---------|--------------|
| Decay | 0 | 65 | 35 | ±1 |
| Size | 0 | 40 | 35 | ±1 |
| Hi Cut | 0 | 100 | 20 | ±1 |
| EQ | - | - | - | - |
| Frequency | 400 Hz | 16.0 kHz | 400 Hz | Variable |
| Width (Q) | 0.5 | 3.0 | 2.5 | ±0.1 |
| Gain | -8 dB | +8 dB | +8 dB | ±1 dB |
| LPF | 6.0 kHz | 18.0 kHz | 8.2 kHz | ±0.1-0.2 kHz |
| HPF | 80 Hz | 600 Hz | 80 Hz | ±1-10 Hz |

3つのモジュレーションエフェクト(Chorus 1、Chorus 2、Flanger)



RATE

ディレイ・モジュレーションのスピードを設定します。設定範囲は、選択したエフェクトによって異なります。

DEPTH

ディレイ・モジュレーションの深さを設定します。設定範囲は、選択したエフェクトによって異なります。

BLEND

サウンドエフェクトがミックスに与える影響の程度を設定します。



レート(Hz)とディープ(ms)は、選択したエフェクトが1秒間に振動する回数を決定します。

ただし、コーラス1、コーラス2、フランジャーのレートとディープは、プロセッサが使用する値に変換される $0.1 \times \text{Hz} / \text{ms}$ で表されます。たとえば、レートが37と表示されている場合、実際のレートは3.7 Hzです。

Chorus 1 Parameters and Values

| Parameter | Low Value | High Value | Default | Increments |
|-----------|-----------|------------|----------|--------------|
| Rate | 0 | 54 | 12 | ±1 |
| Depth | 16 | 73 | 28 | ±1 |
| Blend | 0 | 100 | 59 | ±1 |
| EQ | - | - | - | - |
| Frequency | 400 Hz | 16.0 kHz | 1.0 kHz | Variable |
| Width (Q) | 0.5 | 3.0 | 2.0 | ±0.1 |
| Gain | -8 dB | +8 dB | +0 dB | ±1 dB |
| LPF | 6.0 kHz | 18.0 kHz | 10.0 kHz | ±0.1-0.2 kHz |
| HPF | 80 Hz | 600 Hz | 120 Hz | ±1-10 Hz |

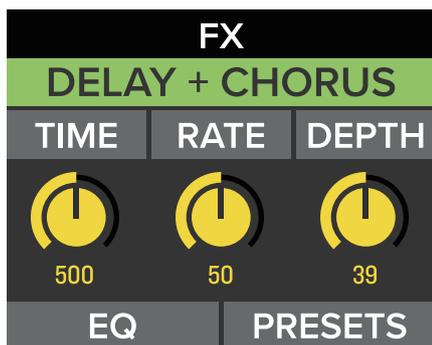
Chorus 2 Parameters and Values

| Parameter | Low Value | High Value | Default | Increments |
|-----------|-----------|------------|---------|--------------|
| Rate | 16 | 93 | 16 | ±1 |
| Depth | 30 | 150 | 36 | ±1 |
| Blend | 0 | 100 | 100 | ±1 |
| EQ | - | - | - | - |
| Frequency | 400 Hz | 16.0 kHz | 3.0 kHz | Variable |
| Width (Q) | 0.5 | 3.0 | 3.0 | ±0.1 |
| Gain | -8 dB | +8 dB | -8 dB | ±1 dB |
| LPF | 6.0 kHz | 18.0 kHz | 8.7 kHz | ±0.1-0.2 kHz |
| HPF | 80 Hz | 600 Hz | 334 Hz | ±1-10 Hz |

Flanger Parameters and Values

| Parameter | Low Value | High Value | Default | Increments |
|-----------|-----------|------------|----------|--------------|
| Rate | 0 | 100 | 10 | ±1 |
| Depth | 10 | 150 | 62 | ±1 |
| Blend | 0 | 100 | 100 | ±1 |
| EQ | - | - | - | - |
| Frequency | 400 Hz | 16.0 kHz | 7.6 kHz | Variable |
| Width (Q) | 0.5 | 3.0 | 2.0 | ±0.1 |
| Gain | -8 dB | +8 dB | -1 dB | ±1 dB |
| LPF | 6.0 kHz | 18.0 kHz | 18.0 kHz | ±0.1-0.2 kHz |
| HPF | 80 Hz | 600 Hz | 90 Hz | ±1-10 Hz |

3つのマルチFX(ディレイ+リバーブ、ディレイ+コーラス、リバーブ+コーラス)



レート (Hz) とディープ (ms) は、選択したエフェクトが 1 秒間に振動する回数を決定します。

ただし、2 つのコーラス・モジュレーション・エフェクトのレートとディープは、プロセッサが使用する値に変換される $0.1 \times \text{Hz} / \text{ms}$ で表されます。たとえば、レートが 37 と表示されている場合、実際の値は 3.7 Hz です。

TIME

ディレイ時間をミリ秒単位で 20 ミリ秒から 1000 ミリ秒まで設定します。

RATE

モジュレーションの速度を設定します。範囲は、選択したエフェクトによって異なります。

DEPTH

ディレイ・モジュレーションの深さを設定します。範囲は、選択したエフェクトによって異なります。

DECAY

リバーブのディケイタイムを表し、0から60の範囲で設定できます。

SIZE

リバーブの量(または「部屋の大きさ」)を表し、0(リバーブなし)から15(最大リバーブ)の範囲で設定できます。

Delay + Reverb Parameters and Values

| Parameter | Low Value | High Value | Default | Increments |
|-----------|-----------|------------|----------|--------------|
| Time | 20 ms | 1000 ms | 196 ms | ±9-10 ms |
| Rate | 16 | 73 | 26 | ±1 |
| Depth | 0 | 100 | 8 | ±1 |
| EQ | - | - | - | - |
| Frequency | 400 Hz | 16.0 kHz | 6.8 kHz | Variable |
| Width (Q) | 0.5 | 3.0 | 2.1 | ±0.1 |
| Gain | -8 dB | +8 dB | +2 dB | ±1 dB |
| LPF | 6.0 kHz | 18.0 kHz | 12.6 kHz | ±0.1-0.2 kHz |
| HPF | 80 Hz | 600 Hz | 88 Hz | ±1-10 Hz |

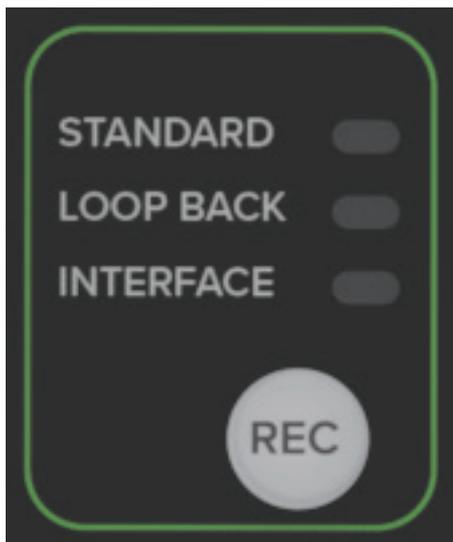
Delay + Chorus Parameters and Values

| Parameter | Low Value | High Value | Default | Increments |
|-----------|-----------|------------|---------|--------------|
| Time | 20 ms | 1000 ms | 196 ms | ±9-10 ms |
| Rate | 0 | 73 | 12 | ±1 |
| Depth | 16 | 100 | 40 | ±1 |
| EQ | - | - | - | - |
| Frequency | 400 Hz | 16.0 kHz | 1.0 kHz | Variable |
| Width (Q) | 0.5 | 3.0 | 2.0 | ±0.1 |
| Gain | -8 dB | +8 dB | ±0 dB | ±1 dB |
| LPF | 6.0 kHz | 18.0 kHz | 6.0 kHz | ±0.1-0.2 kHz |
| HPF | 80 Hz | 600 Hz | 80 Hz | ±1-10 Hz |

Reverb + Chorus Parameters and Values

| Parameter | Low Value | High Value | Default | Increments |
|-----------|-----------|------------|----------|--------------|
| Decay | 0 | 60 | 10 | ±1 |
| Size | 0 | 15 | 6 | ±1 |
| Rate | 0 | 54 | 33 | ±1 |
| EQ | - | - | - | - |
| Frequency | 400 Hz | 16.0 kHz | 415 Hz | Variable |
| Width (Q) | 0.5 | 3.0 | 2.0 | ±0.1 |
| Gain | -8 dB | +8 dB | -5 dB | ±1 dB |
| LPF | 6.0 kHz | 18.0 kHz | 10.0 kHz | ±0.1-0.2 kHz |
| HPF | 80 Hz | 600 Hz | 108 Hz | ±1-10 Hz |

レコーディングモード



REC ボタンを押して、3 つのレコーディングモードを切り替えます。現在選択されているモードは緑色に点灯します。

STANDARD

メインミックスをPCにキャプチャします。

LOOP BACK

コンピュータのオーディオをレコーディングに含めます。

これは、ビデオゲームのストリーミングや、バックトラックに合わせて音楽を演奏する場合などに最適です。

INTERFACE

インターフェース - チャンネル 1 および 2 のオーディオをエフェクトをかけずにそのままコンピュータに直接送信し、クリーンなレコーディングを実現します。

バッテリー交換

リチウムイオンバッテリーを使用できます。これは、モバイルギグ、ライブストリーミングなどに最適です。



この製品を取り付けて使用する前に、この取扱説明書をよくお読みください。

注意事項に従わない場合、損傷、けが、あるいは死亡事故につながるおそれがあります。

1. 警告:

バッテリー(バッテリー、バッテリーパック)は、直射日光、直火、その他の過度の熱にさらさないでください。

2、注意:

バッテリーを誤って交換すると、爆発の危険があります。同じまたは同等のタイプのもので交換してください。

3、点灯したろうそくなどの裸火を装置の上に置かないでください。

警告:

この製品を設置する場合は、必ず安全基準を遵守してください。

この説明書に記載されていない方法で製品を設置しないでください。

バッテリー/カバーの取り外し手順

ProFX10 GO の電源プラグを抜き、電源をオフにして、柔らかい平らな面に底面を上にして置きます。

指で、ミキサーの前方に向かって緑色のタブを押します。ロックが解除され、左図のように飛び出します。

バッテリーコンパートメントのカバーを取り外し、取り外した位置に注意して脇に置いておきます。



左図のように、ProFX10 GO からバッテリーを取り外します。

バッテリーを取り外す際は、マイナスドライバーがあるとスムーズです。

ミキサーのグリーンタブ側のバッテリーに小さな切り欠きがあります。

その切り欠きに爪を引っ掛け、バッテリーをまっすぐ上に持ち上げて取り外します。

バッテリーの取り付け方法:

バッテリーカバーとバッテリーを取り外して脇に置いたら、別のバッテリーを挿入します。



取り付けの際には抵抗がなく、正しい向きでしか取り付けられません。

緑色の丸で囲んだ部分、バッテリーを取り外した場所に電源コネクタがあります。

バッテリーの電源コネクタ（緑色の丸で囲んだ部分）を ProFX10 GO の電源コネクタに合わせ、ゆっくと離します。力を入れる必要はありません。ご不明な点がある場合は、ミキサーの写真のバッテリーをご覧ください。

バッテリーカバーを元に戻し、タブが「カチッ」と音がするまで押し下げて ProFX10 GO にロックします。



使用していないときは、予備のバッテリー（別売り）をUSBケーブルで充電できます。ケーブルの USB-C 側をバッテリーに接続し、もう一方の端を標準の USB コネクタに接続します。バッテリーは、ProFX10 GO に接続した状態でも充電されます。

バッテリー仕様

11.1V、5200mAh、57.72Wh、24V

サイズ: 127 × 76 × 22 mm

バッテリー充電手順

写真の緑色の四角で囲まれた部分。取り外し可能なバッテリーの片側には USB-C コネクタがあります。これは、ミキサーにバッテリーを装着したまま充電するほか、別の方法でバッテリーを充電するためのものです。

USB-C コネクタの隣には小さな円があります。これは、バッテリー残量を表示する LED です。同じテキストが GB-10 バッテリー本体にも印刷されています。



トラブルシューティング

電源が入らない

- ・電源コードの接続を確認、電源ケーブルがソケットの奥までしっかりと挿し込まれているか確認してください。コンセントが電力を供給しているかテスターなどで確認してください。電源タップ等がオンであることを確認してください。

チャンネルのトラブル

- ・ゲインが適切に設定されているか確認してください。
- ・ノブは上がっていますか。
- ・同じ信号ソースを他のチャンネルに接続し、問題があると思われるチャンネルとまったく同じ設定にしてみてください。
- ・PANの設定を確認してください。
- ・EQとLow Cutスイッチの設定を確認してください。

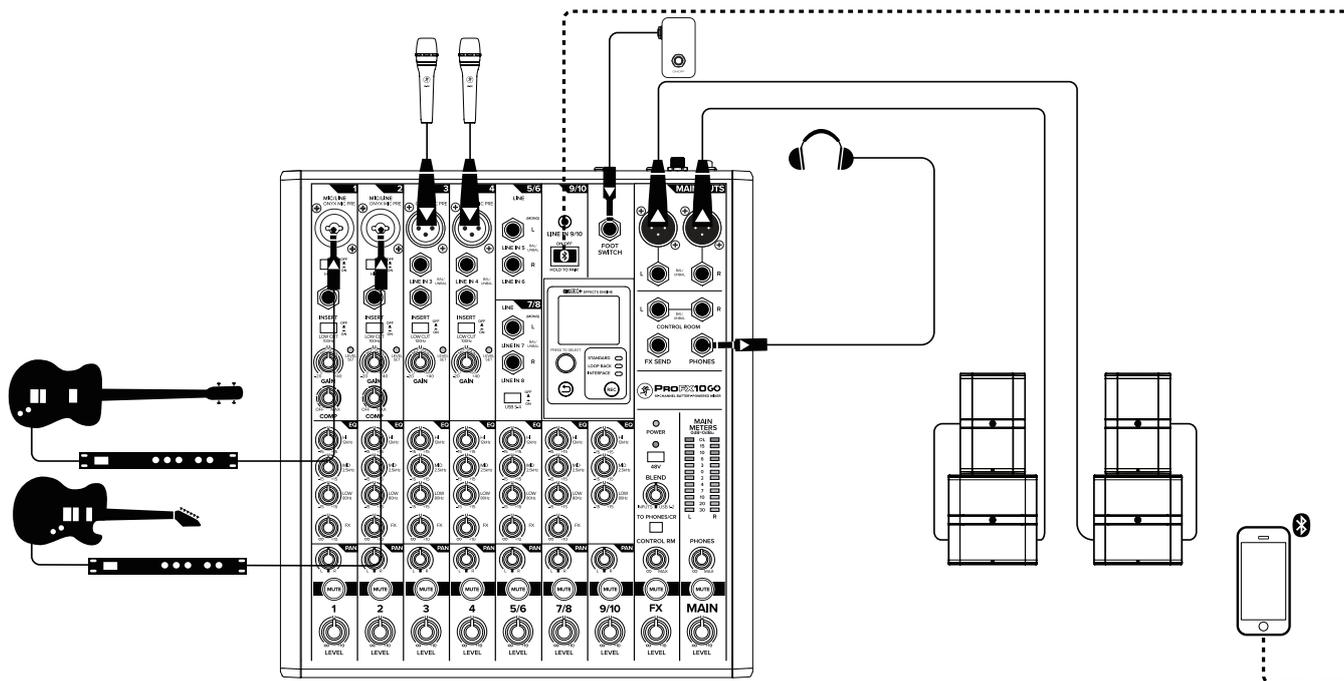
出力がおかしい

- ・関連するレベルコントロールは上がっていますか。
- ・例えば、左のスピーカーに異常が見られる場合は、左右のコードを入れ替えてみてください。症状の左右が入れ替わらなければ、ミキサー以外に原因があることになります。

ノイズ

- ・チャンネルフェーダーとステレオリターンのノブを個別に下げてください。ノイズが消えればそのチャンネルまたはそこに接続している機器が問題なので、その機器を外してみます。これでノイズが消えればその機器が原因です。

ライブサウンドシステム



この図は、ギターとベースが、それぞれモノラルエフェクトプロセッサーを経由して、チャンネル 1 および 2 のラインレベル入力に接続されています。

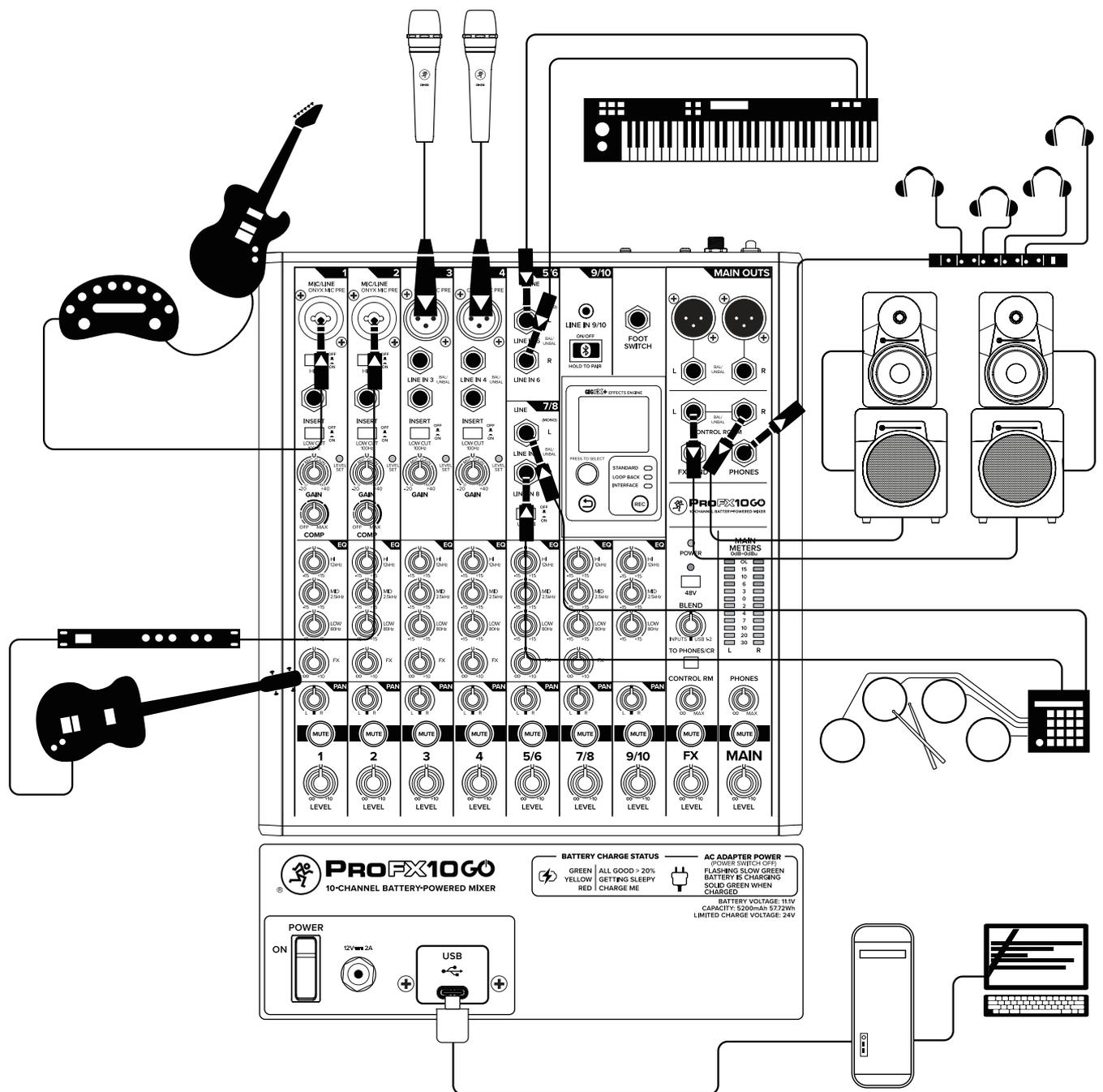
Hi-Z スイッチは、両方のチャンネルでオンになっています。マイクは、以下の 2 つのチャンネルに接続されており、リードボーカルとバックアップボーカルを担当します。スマートフォンは最後のチャンネルに Bluetooth 経由で接続されています。

パワードサブウーファーが、左右のメイン出力に接続されてい

ます。これらは、フルレンジ・スピーカーのペアに接続され、PA を完成させます。ヘッドホンはモニタリングに使用され、フットスイッチにより、内部エフェクトのミュート/ミュート解除を行います。

ミキサーの背面パネルにある USB ポートにノートパソコンを接続できます。これにより、パフォーマンスを DAW にレコーディングしたり、パソコンから音声をメインミックスへ再生できます。

レコーディングシステム



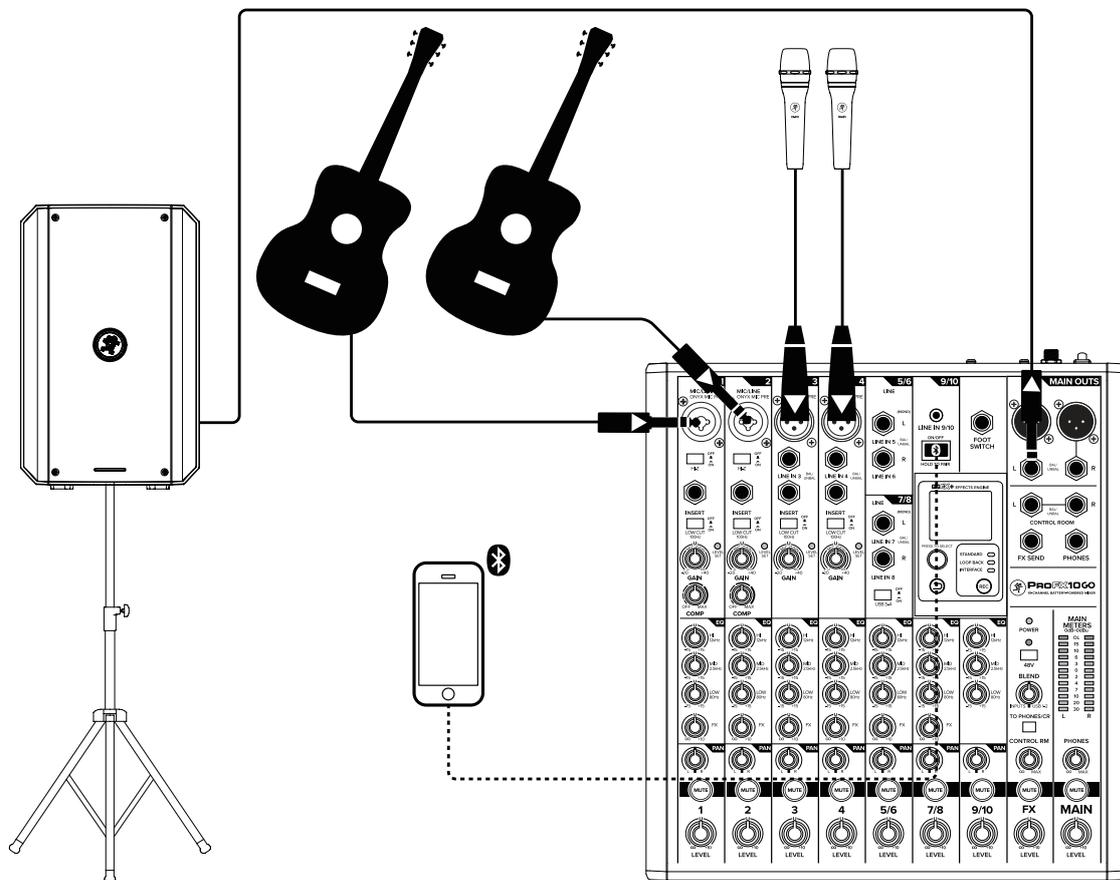
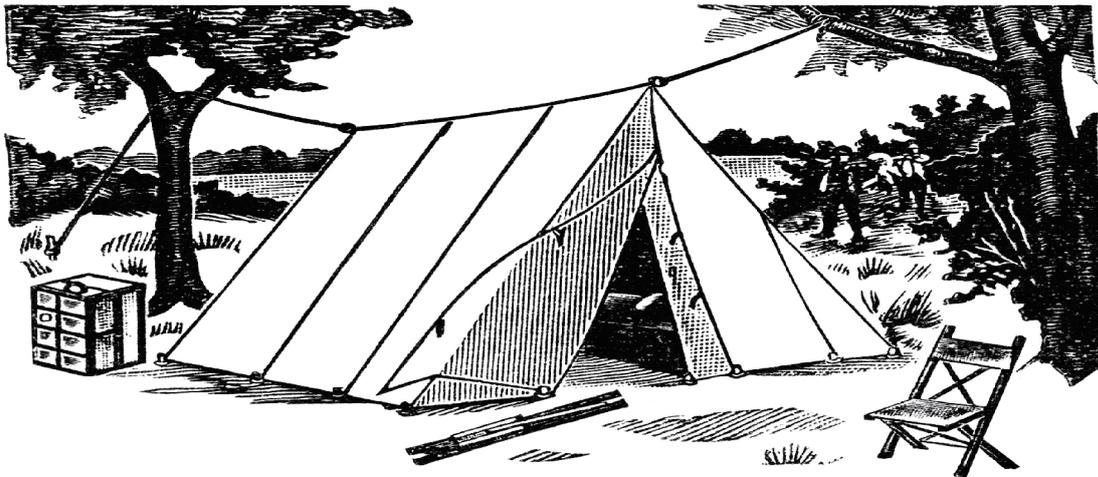
この図も、ギターとベースをチャンネル 1と2 のラインレベル入りに、それぞれモノラルエフェクトプロセッサ経由で接続します。Hi-Z スイッチは、両方のチャンネルでオンになっています。マイクはチャンネル 3 と 4 に、キーボードはステレオチャンネル 5/6 に、電子ドラムキットはステレオチャンネル 7/8 に接続されています。

パワー・リファレンス・サブウーファーとモニターは、パフォー

マンスを正確にモニタリングするために、左右のコントロールルーム出力に接続されています。ヘッドホン出力からヘッドホンアンプに接続されヘッドホンに繋がっています。これらのヘッドフォンは、トラック録音時に使用できます。

デスクトップコンピュータは USB ポートに接続され、DAW へのミックスのレコーディング、および DAW からの再生を行います。

キャンプ



「ある家族はキャンプが大好きですが、一緒に音楽を演奏するのも大好きです。Mackie ProFX10 GO があれば、その両方が可能になります。

2本のギターをチャンネル1とチャンネル2の入力に接続しています。Hi-Zスイッチは両方のチャンネルともにオンにしてください。マイクをチャンネル3と4に接続します。

スマートフォンをBluetoothで接続して、バックトラックやビートなど、好きな音楽を再生できます。

メインの左出力は、バッテリーでも駆動可能な Thump GO スピーカーの入力に接続し、全員が素晴らしい音楽を楽しめます。

ギターの演奏が終わったら、入力からギターを取り外し、Hi-Zスイッチがオフにして、2本のマイクに交換します。スマートフォンから曲を再生し、参加者は順番に自分の好きな曲に合わせて歌えます。

マイクスタンド

ProFX10 GO の底面パネルには、オプションのマイクスタンドアダプターを取り付けるための 3 つのネジ穴があります。これにより、ミキサーを標準的なマイクスタンドに設置し、その高さを好みに合わせて調整できます。



1. Atlas AD-11B マイクスタンドアダプターを用意 (Atlas Sound 社製)。
2. 3 本の Trilobular ネジ (6-32 x 1/4 インチ) を使用して、アダプターをミキサーの底部にしっかりと固定します。



回路基板を損傷するおそれがあるため、1/4 インチより長いネジは使用しないでください。また、1/4 インチより短いネジを使用すると、アダプターがミキサーにしっかりと固定されません。

Specifications

Noise Characteristics

Equivalent Input Noise (EIN) (150 Ω Source Impedance, 20 Hz to 20 kHz)

Mic in to Insert Send out, max gain: -126 dBu

Residual Output Noise

All outputs, master levels off, all channel levels off: -95 dBu

All outputs, master levels unity, one channel level unity: -80 dBu

Frequency Response

Mic input to any output (gain at unity, +0 dB / -1 dB): 20 Hz to 30 kHz

Distortion (THD+N)

(22 Hz to 80 kHz bandwidth)

Mic in to Main Out (+4 dBu output): <0.02%

Attenuation and Crosstalk

Adjacent Inputs @1 kHz: -90 dB

Inputs to Outputs @1 kHz: -80 dB

Fader Off @1 kHz: -75 dB

Mute Switch @ 1 kHz : -90 dB

Common Mode Rejection Ratio (CMRR)

Mic in to Main out, max gain, 1 kHz: 70 dB

Maximum Levels

All inputs: +22 dBu

Main Mix XLR: +28 dBu

All other outputs: +22 dBu

Impedances

Mic in: 3.3 k Ω

Channel Insert Return: 10 k Ω

All other inputs: \geq 20 k Ω

Phones out: 25 Ω

All other outputs: 120 Ω Unbalanced,
240 Ω Balanced

Equalization

Low:±15 dB @ 80 Hz
Mid: ±15 dB @ 2.5 kHz
High: ±15 dB @ 12 kHz
Low Cut Filter:.....18 dB/octave @ 100 Hz

Maximum Voltage Gain (EQ Flat)

Mic Input Channel to...

Insert Output:.....60 dB
1/4" Main Output: 80 dB
XLR Main Output:.....86 dB

Mono Line Input Channel to...

Insert Output:.....40 dB
1/4" Main Output: 60 dB
XLR Main Output:.....66 dB

Stereo Line Input Channel to...

1/4" Main Output: 20 dB
XLR Main Output:.....26 dB

1/8" Input to...

1/4" Main Output: 40 dB
XLR Main Output:.....46 dB

USB Input to...

XLR Main Output:.....46 dB

Digital Effects

Number of Presets: 12

Meters

Main L/R Mix – Two columns of 12 segments each:..... OL, +15, +10, +6, +3, 0 (0 dBu), -2, -4, -7, -10, -20, -30

USB

Format: USB 2.0
I/O:1 Stereo Input, 2 Stereo Outputs
A/D/A: 24-bit, 44.1 kHz, 48 kHz, 96 kHz, 192 kHz

Phantom Power

48 VDC to all Mic channels simultaneously

Power Requirements

Power Connector: 12V  2A Class I Hard-Wired Wall Mount Adapter [Output]
100VAC-240VAC, 50-60 Hz, 0.8A [Input]

Battery Type:Lithium Ion

Battery Technology:11.1V, 5200mAh 57.72Wh, 24V

Battery Life: Up to 8 hours

Operating Temperature:0-40° C // 32-104° F

Dimensions

PROFX10 GO

Size (H x W x D): 3.8 x 10.6 x 11.5 in
97 x 269 x 292 mm

Weight: 5.9 lb
2.7 kg

GB-10

Size (H x W x D): 5.0 x 3.0 x 0.89 in
127 x 76 x 22 mm

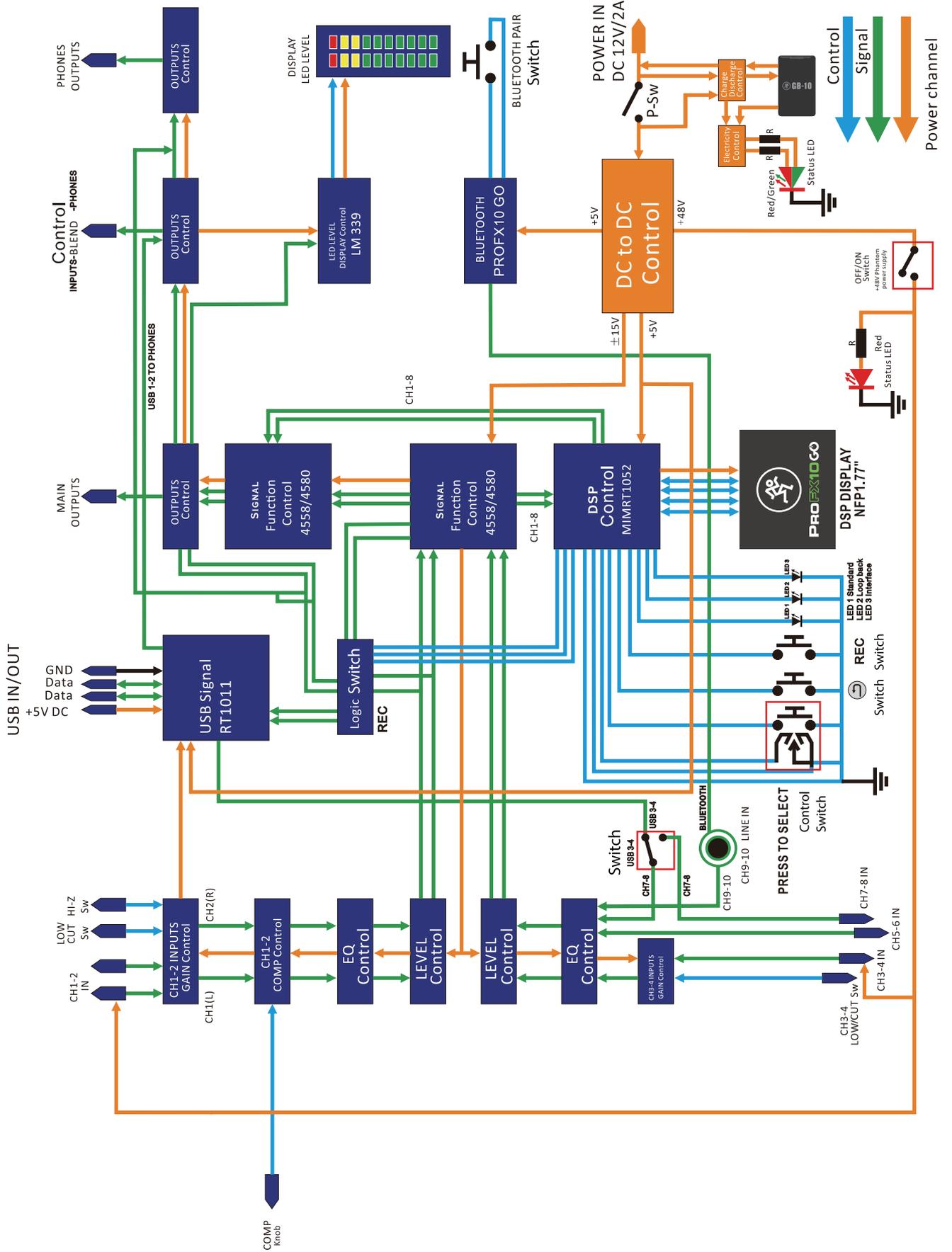
Weight: 0.75 lb
0.34 kg

Options

ProFX10 GO Carry Bag:P/N 2057398

GB-10 Battery:P/N 2058458

ProFX10 GO Block Diagram



ProFX10 GO Dimensions

10.6 in / 269 mm

11.5 in / 292 mm



3.8 in / 97 mm



Weight
5.9 lb / 2.7 kg



USB 3/4 リターン設定

ProFX10 GO ミキサーを使用すると、コンピュータから USB 1/2 プレンドミックスまたは 3/4 メインミックスにオーディオを送信できます。

USB 1/2 はレコーディング時のオーバーダビングに最も有用であり、3/4 は通常、バックトラック、ストリーミング、ゲームオーディオに使用されます。

コンピュータに接続すると、ProFX10 GO はデフォルトで USB 1/2 に設定されます。これを USB 3/4 に変更するには、コンピュータの設定を変更する必要があります。システムのオーディオ設定を使用する Windows および Mac の基本的な設定手順について説明します。

Windows

1. Mackie のウェブサイトから USB ドライバをダウンロードします。
2. インストール手順に従ってドライバをインストールします。
3. タスクバーにあるスピーカーアイコンを右クリックします。
4. 「サウンドの設定」を選択します。
5. 「出力デバイスの選択」で、ドロップダウンメニューから「ProFX10 GO 3-4」を選択します。
6. ミキサーで、2 番目から最後のチャンネルの USB 3/4 ボタンが押されているのを確認します。
7. チャンネルフェーダーをユニティまで上げ、メインミックスフェーダーをゆっくりと上げます。

メインメーターが点灯し、メイン出力に接続されたデバイスから PC オーディオが聞こえれば、接続が正常に機能しています。



一部の DAW および他のストリーミングアプリケーションには、システム設定よりも優先される独自の設定があります。

その場合は、DAW / アプリケーションの変更方法に関する手順を確認してください。

Mac

Mac では、ドライバのダウンロードは必要ありません。ただし、macOS 内で一部のパラメーターを変更する必要があります。

1. Spotlight 検索 (Command + スペースバー) を使用して、オーディオ MIDI 設定アプリを開きます。
2. デバイスを右クリックし、「このデバイスをサウンド入力に使用」および「このデバイスをサウンド出力に使用」で ProFX10 GO ミキサーを選択します。
3. 「スピーカーの設定」ボタンを選択し、「ステレオ」に設定されているのを確認します。
4. 左と右のオプションを「アナログ 3」と「アナログ 4」に変更し、「適用」をタップします。
5. ミキサーで、2 番目から最後のチャンネルの USB 3/4 ボタンが押されているのを確認します。
6. チャンネルフェーダーをユニティまで上げ、メインミックスフェーダーをゆっくりと上げます。

メインメーターが点灯し、メイン出力に接続されたデバイスから PC オーディオが聞こえれば、設定が正常に機能しています。